



芽吹きシリーズ vol.1

冬の芽吹き コンサート

～ 滝沢昌之門下生の新芽～

2011年12月27日(火)

開場18:30 開演19:00

¥1,500 (当日¥2,000)

スタジオ・フリッツ・ナタン 福岡市中央区平尾5-22-10



市川美樹子
(フルート)



平山龍
(フルート)



滝沢昌之
(フルート)



中川淳一
(ピアノ)

チケット申し込み／問い合わせ

アコルデ音楽企画 092-552-5147 (E-mail) ac.musique@gmail.com (WEB) <http://www.otomigaki.com>

Program Note

〔第1部〕

亡き王女のためのパヴァーヌ	(ラヴェル)	平山・滝沢・市川	パヴァーヌとは、カップルのかしまった行進。スペインの宮廷で小さな王女が踊るパヴァーヌが描かれている。
ハバネラ形式の小品	(ラヴェル)	市川・中川	ハバネラ舞曲はキューバからスペインに輸入された。ラヴェルの母親がスペイン人の血をひいていたためスペイン風の作品も多い。半音階が妖艶な雰囲気を出している。
精霊の踊り	(グルック)	平山・中川	グルックのオペラ『オルフェオとエウリディーチェ』で、天国の野原で精霊たちが踊る場面の音楽。清楚で優雅な趣をもつ。
ロマンス	(サンサーンス)	市川・中川	情緒にあふれた、ロマン主義のいかにも甘美で、心を優しく撫でるような音楽。
タイスの瞑想曲	(マスネ)	平山・中川	歌劇『タイス』の間奏曲。享樂的な生活を送る娼婦タイスを聖僧が改心させようとするが、タイスは瞑想して人生を振り返る。心の揺れを表している音楽。
ギリシャ風ディベルティメント	(ゴーベール)	滝沢・平山・中川	ディベルティメントは明るく軽妙で楽しい曲風である。ゴーベールの優しさが見え出す。
アンダンテとロンド	(フランツ・ドプラー)	滝沢・市川・中川	ハンガリーのドプラーは、弟のカルと共にフルートのヴィルトゥオーソ兄弟としてヨーロッパ中を席巻していたため、この様な二重奏作品も多い。

—— 休憩(約15分) ——

〔第2部〕

セレナーデ	(ウッダール)	平山・中川	恋人や女性を称えるために演奏されるセレナーデ。愛らしい音楽だ。
マタイ受難曲より Aus Liebe	(J.S.バッハ)	市川・中川	愛ゆえに、救世主は私たちの身代わりに死を求められるのです、と気高く詠唱するアリア。バッハがこの受難曲の中でも最も思い入れを高めて作曲したと推察される曲。
コンクール小品	(フォーレ)	市川・中川	フォーレの優しい色彩感が味わえる音楽。
ロマンス	(ゴーベール)	市川・中川	ゴーベールにはロマンスが2曲あるが、この作品は短くよくまとまった方。フルート、ピアノとも、高い演奏技術が必要とされる。
即興曲・カルム	(アンデルセン)	滝沢・中川	デンマークの作曲家、アンデルセンは、「フルートのショパン」「フルートの詩人」とも言われる。歌あり、ユーモアあり、北欧の暗さあり、詩情ありの美しい音楽。
雪灯りの幻想	(福島弘和)	市川・滝沢・平山	冬の旅に、雪原に映える情景。ちらちらと粉雪が舞い降りる。静寂の中に、雪だけが降る幻想的な光景を描いている。

*当日のプログラムは、このチラシと同じものをお配りいたします。曲目やパートは当日変更がある場合があります。